

海上の森ミニセミナー第17回

海上の森のコケ散歩

日時：平成30年1月27日（土）13時30分～15時30分

話題提供者：コケ愛好家 のだ ふみ 氏（NPO 法人海上の森の会会員、日本蘚苔類学会会員、岡山コケの会会員）

はじめに



コケの観察会は関東・関西では精力的に行われていて、活動している人も多いために回数も多く、コケに長けた先生もたくさんいます。しかし、私はコケに興味を持ってから愛知県内のあちこちをまわり、日本自然保護協会に入会してコケの観察会について尋ねましたが、「ずいぶん前には行っていたが最近には行っていない」という返答でした。最終的にここ海上の森にたどり着きましたが、ここでもコケの観察をしているという情報はなく、調査報告などありませんでした。ですが、「そんなに好きなら自分でやってみてはどうか」という意見をもらい、海上の森でコケの観察をすることになりました。

コケについては植物の知識・分類学の知識に加え観察についても素人ですが、私はコケの“抗わない生き方”に惹かれています。

コケの特徴

コケはほかの植物と違って根っこがありません。また、地中から水分や養分を吸い上げる維管束もなく、体の水分や養分を逃がさないようにするクチクラ層もありません。代わりにコケは体全体で水をそのまま吸収することができ、また乾燥時には、活動を休止し、枯れたように見えても、生きています。また細胞の厚みが非常に薄いため中に水分を含んだ時に透きとおり、キラキラと宝石のように輝いてみえます。これもコケの最大の魅力です。



なぜコケはそのようなになったのでしょうか。大昔、植物は海から陸にあがったところ「植物戦国時代」とよばれる生育場所の取り合いをしていました。そんな中コケは独自の道を歩み、根の代わりに、仮根(かこん)でしがみつき、他の植物が生えられない場所にも勢力を伸ばすことができました。しかし体の構造上、水をためておくことができないため体が小さくなり、皆で集まりお互いを支え合う“健気な生き方”をするようになりました。

コケの種類

コケは世界中で 18000 種類、日本で 1800 種類が同定されています。ただの「緑の絨毯」と思われている中には、何十種類というコケが含まれているのです。

コケは分類上「蘚苔類」とよばれ、「蘚類」と「苔類」「ツノゴケ類」に細分されます。

・ 蘚類

茎と葉の区別が付き、直立するもの(スギゴケ)と匍匐するものがあります。(例：スギゴケ)

スギゴケの葉の先からのびる部分を「蒴柄(さくへい)」と呼び、その先に胞子の入った蒴(さく)があります。胞子は風に乗って運ばれる。高ければ高いほど風に乗りやすくなり新たな地へと旅をする。



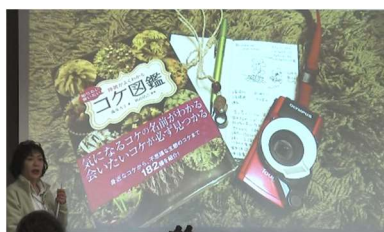
・ 苔類

蘚類よりベタベタした印象(代表のぜにゴケ)。この写真のコケは (例：フルノコゴケ)

乾いているときは全部の葉っぱを折りたたんでダンゴムシのような硬い印象です。雨がふり水分を含むと葉の一枚一枚が直立に立ち上がり、全く違う植物のようで、とても綺麗です。



コケの観察に必要なもの



・ ルーペ

倍率は 15 倍くらいがコケの観察にはちょうど良いです。虫メガネは蘚類の観察はできますが、苔類はさらに小型のコケが多く、その美しさが見えにくい。

・ デジタルカメラ

・ 図鑑

観察したコケについてスケッチや特徴のメモを残し、そのあと図鑑で調べていくやり方が、コケの楽しみ方の次のステップです。

「コケ」と名がついてもコケじゃないもの

森の中には、名前に「コケ」とついていてもコケでないものがたくさんあります。

・例

モウセンゴケ（食虫植物）

ウメノキゴケ（地衣類、綺麗な空気の指標）

コアカミゴケ（地衣類）

トゲシバリ（ハナゴケの一種、地衣類）



コケの生える景観とコケの楽しみ方

コケの楽しみ方には、「コケが生えている景観」を楽しむ楽しみ方もあります。



水掛不動（法善寺）

水掛不動の表面全体にはコケが生えており、参拝者が水をかけるためさらに増えています。常に水をかけられるために青々としていて、隣のお地蔵様の頭にはゼニゴケが生えています。

岡山コケの会がこの水掛不動に生えているコケの種類を調べたところ、全体で5種類くらいのコケのうち、「アオハイゴケ」という水が綺麗な溪流沿いに生息するコケが大半を占めていることが判明しました。参拝者が常に水を掛けてくれることで、都会の真ん中でも、溪流沿いのように生きることができるようです。

〈コケ植物を観察する〉

コケを観察するときには、コケを採るのではなく、自分たちからコケに近づいていきます。そのため、寝っ転がったり、木に張り付いてみたり、壁に張り付いてみたりします。「コケに興味がある」という方は、自分がどういう恰好をしてコケを観察しているのかを気にしていたら、できません。ただし、回りに迷惑にならないよう注意を払うのがマナーです。

コケの楽しみ方はいろいろですが、コケは自然界に生えるものなので「自分のそばに置いておきたい」と思って採ってきても、1・2週間で枯れてしまいます。そのため、「自分たちが外に出てコケに近づいて楽しむ」ということが一番大切です。

コケは購入しようと思うと高価なことが多いです。そのため「自分たちで採ってきて・・・」と思うかもしれませんが、小さなコケの集団の中には、さらに小さな動物や菌類などがいるので、手に傷などがあると危ないです。コケの観察後にも手を洗ってください。（コケ自体には毒はありません。）

吉田川沿いの現地でみられるコケ

これから吉田川沿いでコケの観察をします。今回観察するのは、主に次の4種です。



- ・ヤマトフタマタゴケ

二股に分かれた形態で、樹幹につくコケ。

- ・ノコギリコオイゴケ

大きな葉の上に小さな葉がある。コオイゴケのなかまで、ノコギリのようにギザギザとしている。

- ・オオカサゴケ

雪の影響もあり、今回は現地での観察は断念。顕微鏡での観察。

- ・カビゴケ

「カビゴケ」という名前だがカビが大嫌い。生の葉っぱの上に生育していくコケ。空気や水が綺麗でないと生息できない。

〈観察の注意点〉

コケは実際に見て調べている人が少ないので、海上の森をみんなの「観察の場」にできると楽しいかと思います。コケを楽しむ際には、植物や鳥や水生昆虫などを調べている人もたくさんおり住民の方もいるので、ちゃんとマナーを守ってほしい。また、里山とはいえ、自然の中に足を踏み入れる場合、足元や頭上には危険が伴います。一人では行かないこと。野生の動物や毒性の生き物に注意をしましょう。

緑の絨毯の中にいる小さなコケ植物たちが語りかけてくれていることに気づけた人が、今日ここに集まってくれていると思うので、これから実際にコケの声を聞きにいきましょう。

現地でのコケ観察

吉田川沿いの現地において、4班に分かれてコケの観察。
観察された主なコケは以下のとおり。

- ・ アブラゴケ
- ・ カビゴケ
- ・ ナガサキホウオウゴケ
- ・ ナミガタタチゴケ
- ・ ノコギリコオイゴケ
- ・ ヤマトフタマタゴケ



参加者の皆さんはルーペやデジカメを使って、体をかがめながら地面や壁面、樹幹などにはいつくばるようにコケを観察し、うれしそうな声、楽しそうな声が森に響き渡っていました。



総括

今回はかなり急ぎ足での観察となりましたが、写真で見たものを実際にルーペで覗いて自分の目で見ると、実物のサイズに驚き、煌めくコケの印象も違ってきます。図鑑や写真で見ただけではないコケの生育場所→こんなに過酷な場所を選ばなくても！にも魅力も感じてもらえたのではないのでしょうか。海上の森以外のところでも、足元を見てもらって虫眼鏡やルーペを使って観察をしてもらえたらと思います。



コケのきちんとした同定は、細胞学の博士たちの世界の話になります。そこまでやるのは学者の先生たちなどにお任せしておいて、まずは、自分の好きなコケを決めましょう。



「だいたい、ざっくりしたところ…蘚類か苔類か」のくぐりの部分がわかってくると、そのコケが主に生える場所がわかってきます。ぜひ、その声に耳を傾けてください。コケが守る森の素晴らしさを知ることにも関心がわいてきます。大切に守り続けたい海上の森です。

今後、海上の森がコケの観察の中心の地となればうれしく思います。これからも頑張っていくしますので、このような行事があれば参加していただきたいです。